

連載

社会教育施設について考える (WG 報告)

～第 10 回：公開天文台協会台長会議報告～

齋藤正晴（多摩六都科学館天文グループ）、生涯学習施設支援 WG

1. はじめに

生涯学習施設支援ワーキンググループでは、個別事例の調査研究にあわせ施設の在り方やその変遷について研究してきた。前回の連載では日本公開天文台協会 (JAPOS) 内の WG で同様な活動をされている宮本孝志代表に「公開天文台」についての事例を寄稿していただいた。その流れを汲み、4月16日(月)に東京都足立区のギャラクシティで開催された第2回公開天文台台長会議に参加し取材を行った。今回はこの会議で話題に取り上げられた「施設運営」について、当 WG の観点を含めた取材結果を報告する。

2. 日本公開天文台協会 (JAPOS) とは

JAPOS は公開天文台の発展と、職員の資質向上・交流を深めるとともに、天体を通した人間性の育成をになう生涯学習の充実を目的とした組織である。日本の公開天文台は1980年代からその数が飛躍的に増加したが、昨今の生涯学習施設を取り巻く環境は厳しさを増し、連携を図るべく組織化が検討された。そして「第14回全国の天体観測施設の会」(2005年7月 西はりま天文台公園)において、『日本公開天文台協会 (JAPOS)』が発足したのである[1]。

3. 第2回台長会議での事例発表と報告

前述のような状況を踏まえ、JAPOS では「天文台の運営 (経営・マネジメント)」についての情報共有と討議の場として公開天文台台長会議を開催している。

今回の事例発表では「公開天文台」という設置目的を同じくする施設であっても、その運営形態が様々であることを再認識させられ

た。加えて、運営形態の多様化によりそのメリットとデメリットも一様ではなく、抱える問題とその解決策さえも複雑化しているのだ。それは事例発表だけではなく JAPOS による各施設への運営に関するアンケート調査からも読み取れる。データの共有は問題解決のヒントを得るだけでなく、未だ表面化していない問題を現場サイドが意識することにもつながるようだ。このように台長会議でこれらの報告や情報共有を行うこと自体が、施設の運営・存続を考える上で大変重要であり、この点は当 WG の活動主旨や目的にも通じる。そこで2団体間の連携についても議論が行われ、その可能性を継続して探ることになった。

4. おわりに

台長会議では前向きな意見交換もされ、施設を動かすのはやはり「人」であることを改めて実感させられた。今後の連携で施設運営に関する問題が少しでも解決するよう努めたい。最後に、今回の取材に際し多大なご協力を頂戴した宮本孝志氏に厚く御礼申し上げる。

文 献

[1]公開天文台協会ウェブページ

<http://www.koukaitenmondai.jp/setumei/setumei.html>



齋藤 正晴